



梅二小だより

令和8年5月1日

No.2

校長 石川 雅章

<http://www.adachi.ed.jp/adauni/>

子どもの健やかな成長を願って

校長 石川 雅章

さわやかな風が心地よい季節となりました。新しい学年が始まって1か月が過ぎ、子どもたちは落ち着いた様子の中にも、元気よく活動する姿が見られます。21日には「1年生を迎える会」がありました。2～6年生が「6年間でこんなことができるようになるよ」という内容のお祝いの出し物をしました。1年生もお礼の出し物をし、会場があたたかな雰囲気でも包まれました。司会進行等を務めた代表委員会の児童も大変立派でした。

さて、5月5日は「子どもの日」です。今、学校の昇降口には立派な五月人形の鎧飾りや鯉のぼりの飾りが置かれていて、子どもたちが眺める様子が見られます。鯉のぼりは、「流れの速い川でも力強く泳ぎ、やがて滝をのぼって龍になる」という伝説に由来します。五月人形の兜や鎧には、「子どもたちをけがや災いから守り、健やかに成長してほしい」という思いが込められています。どちらにも共通しているのは、「子どもたちに強く、たくましく育てほしい」という願いです。武将の甲冑姿からは、力強さや勇ましさを感じられますが、現代の子どもたちにとって大切な「強さ」は、それだけではありません。

例えば、うまくいかないときにあきらめずにもう一度挑戦すること。やりきること。

失敗したときに、振り返りをして、次に生かそうとすること。

友だちと考えが違って、相手の意見をしっかり聞き、粘り強く合意形成すること。

こうした「心の強さ」が、これからの時代を生きていく子どもたちにとって大切な力であると考えています。

学校では、子どもたちがそのような力を身に付けられるよう、日々の学びを大切にしています。授業の中では、「どうしてだろう」「こう考えたよ」と自分の思いや考えを表現し、友だちと伝え合う場面を多く取り入れています。自ら考え、関わり合いながら学ぶことで、理解が深まり、学んだことが定着していきます。

また、あたたかな人間関係の中で安心して過ごすことも、子どもたちの成長には欠かせません。友だちを思いやる気持ちや、相手の立場に立って考える力は、日々の関わりの中で育まれていきます。「ありがとう」「大丈夫？」といった言葉が自然に交わされる学校でありたいと考えています。

5月は、大人も子どもも環境の変化に慣れてくる一方で、暑くなってきましたし、心身の疲れが出やすい時期でもあります。子どもたちは元気いっぱい過ごしているながらも、知らず知らずのうちに緊張を続けていることがあります。ご家庭で、ぜひお子様の様子に目を向け、温かい声をかけていただければと思います。子どもたちの安心感につながります。

これからは、運動会に向けた練習が本格化し、目標に向かって努力する場面が増えていきます。思うようにいかないこともあるかもしれませんが、その経験こそが、子どもたちの心の強さ、大きな成長につながります。結果だけでなく、その過程での努力や挑戦を大切にしていきたいと考えています。

子どもたち一人一人が自分らしく成長していけるよう、今後も教育活動を進めてまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。